

★プログラム紹介★



①「体験活動の指導法」

体験学習の一つであるアドベンチャー教育を実際に体験しながら、学習効果や、指導時の留意点について学びました。



②「安全管理」

子どもたちを危険から守る方法について、リスクマネジメントの知識からケガの応急処置からまで、理解を深めました。



③「学校教育における体験活動の意義」

青少年教育の現状と課題を確認したうえで、体験活動の必要性やその教育効果について学びました。



④「教育課程と体験活動の関連性」

体験活動を教育課程に組み入れる方法について、実際に行った事例の紹介などを通して学びを深めていきました。



⑤「自然体験活動の技術」

実際に冬の森で様々なアクティビティを楽しみながら、自然体験活動の基礎的な知識や技術を養いました。



⑥「プログラムの企画立案」

企画立案から評価までの流れを整理し、さらにモデルプログラムの事例の紹介を受け、理解を深めました。

企画・運営のポイント

- ① 3泊4日の研修会全体を通して自然体験活動指導者としてのスキルが向上できるように、各講師が研修会全体の講習内容を把握し、それぞれの講習のつながりを考慮しながら一連の流れになるようプログラムを組んだ。
- ② プログラムについては、子どもへの豊かな指導経験を有する社会人から、まだ指導者としての経験が少ない学生まで、参加者の力量の幅が広がることを想定して、高度な内容だけではなく基礎的なことについても多く盛り込んだ。
- ③ 実習の時間をできるだけ確保したり、具体的な事例や方策をより多く紹介することで、指導者として実際の現場ですぐに生かしていける内容にした。
- ④ 体験活動や安全管理の指導に長けた大雪職員が講師を担当したり、自然体験活動、プログラムの企画立案、学校教育や教育課程について高度な知識・技術を持つ外部講師を招くことで、充実した内容になるようプログラムを企画した。

事業を終えて(成果・課題)

- ① 基礎的な内容から高度な内容まで偏り無くプログラムを組んだことで、多くの参加者が満足できる研修会にすることができた。
- ② グループで行う活動をできるだけ設定したり、参加者が情報交流する機会や場を設けたことで、参加者同士の関係が深められ、ネットワークの構築をすることができた。
- ③ 自然体験活動指導者としての力量をますます高めてもらうために、今回の研修会で学んだ知識や技術を実践で活かせる場を提供していく必要がある。